

シリーズ 部活動地域移行 第2回

昨年秋、柏二中特設相撲部の顧問・永井明慶さん取材させていただき、その先進的かつ熱意ある指導に大変感銘を受けました。今回は柏市の部活動地域移行を担う KSCA (一般社団法人 柏スポーツ文化推進協会) の代表理事としてお話を伺うため、再度、柏市中央体育館相撲場におじゃましました。



Q: 部活動地域移行、いよいよ9月から始まりましたが手ごたえはいかがですか？

A: 予想以上に多くの子もたちが参加してくれてうれしいですね。



Q: 参加人数はどのくらいですか？

A: 今年度の地域移行対象外の陸上部と吹奏楽部、文化部、部活に所属していない生徒、3年生を除くと、約3,500人の生徒が対象となるのですが、そのうち2,500人の生徒さんに参加していただいだけ、参加率7割以上という数字はとてありがたいと思っています。

Q: もっと参加率を上げていきたいところですよね？

A: はい。令和7年度以降は完全移行、つまり、完全に地域に任せることになるので、そこを見据えて、動いていかなければと思っています。

Q: そのためには KSCA 自身も運営を強化していく必要がありますよね？

A: はい。参加者の会費だけでなく、今後、企業の協賛などで財源を確保していくことも考えています。



Q: 無料だったものが有料になることへの抵抗を感じている保護者の声も聞かれますが…？

A: これまでの部活は、学校の先生がボランティアに近い状況で働いていたと考えることもできます。塾に通ったら月謝を支払うように、地域クラブの運用に関わる経費を参加者が支払い、安定的に活動できる仕組みを整えているところだと考えていただければと思います。

Q: 学校の先生の負担軽減が部活動地域移行の目的の一つですが、それは実現できていますか？

A: 教育委員会の調査によると、減っているそうですよ。^{※1}

※1 過労死ラインの80時間以上超過勤務があった教員数が半減(約100人⇒50人)

Q: 部活分が減ったということのようですね。学校の先生で指導者になった方はどのくらいいらっしゃいますか？

A: 指導者約260人のうち教員が160人^{※2}です。今回スムーズに移行が進んだのは、多くの先生方が指導員になってくださったということも大きいです。

※2 柏市の教員全体の約2割。

Q: クラブに参加しないと実力に差が出たりしませんか？

A: KSCA の活動の根本は子どもたちの活動の場を確保することです。指導員の研修会でも「強くなるためだけでなく、子どもたちの活動の場を守るためにやってください」とお話ししています。ただ、地域クラブのなかでもっと強くなってオール柏チームを作りたいという要望も既に出てきているので、別の仕組みを作って、令和6年度には対応できるようにしていきたいと考えています。

Q: 私は自分の得意分野をいかして地域クラブに関われればと思っているのですが、可能ですか？

A: パソコン部やイラスト部、あるいは女子サッカーや女子野球など、既にいろいろな分野があがっていますよ。

Q: 文化部の地域移行も楽しみです。そのほか保護者ができることは何かありますか？

A: 将来的には、中学校の部活動を、地域の大人も小学生も来られるような集いの場にしたいと思っています。そのような環境を作るためには、同じ志を持った人が何らかの形で参加していただけたらありがたいと思っています。実際、「二中の卒業生なので後輩たちのために何かやりたい」という理由で、指導者になった方もいるんですよ。

Q: それでも、なかなか自分事としてとらえにくいのではないかと思いますか…。

A: 今後さらに少子化が進んでいくと、大人数の競技は団体チームがどんどん増えていきますし、部活の運営自体が難しくなる日もくるでしょう。そうなったとき動くのか、それを見据えて今動くのか。将来の子どもたちのために、20年後、30年後に、“やっていてよかったね”というものを今作り上げているんだと思っています。



KSCAの詳細については
ホームページをご覧ください。



「入学当時、柏二中には相撲部がなかったのが、2年生までは木更津の私立中学に通っていました。子どもたちにはそういう思いをさせたくない」と永井さん。

部活動地域移行 現場の声 野球部

Q: 野球部の部員数を教えてください。

岩内先生: 1、2年生合わせて19人です。

Q: 練習試合も含めた試合の頻度は?

岩内先生: 少なくとも2週に1回はあります。なるべく土日は試合を組んでいます。

Q: 部活動地域移行に登録しなかった生徒は?

岩内先生: 二中の野球部にはいません。

Q: 登録しないと技能に差が出たりしませんか?

岩内先生: 技能面というより、練習試合は土日しかできないので、試合に出る機会は減ってしまいます。今のところ新人戦や総体については部活動として出場できますが…。

部活動地域移行の現場はどうなっているか——地域の野球クラブの指導員も担当されている岩内先生にお話を伺いました。



守備練習時にノックする岩内先生

Q: なぜ地域クラブの指導員になったのですか?

岩内先生: 教員になるときに、中学校の保健体育と野球部の指導をしたいと思っていましたので、その流れです。

Q: 学校が異動になっても、クラブの指導員を継続することも可能ですか?

岩内先生: 実はその辺りは来年度から課題になってくると思います。平日は異動先の学校の部活を指導して、土日だけ二中のクラブを指導するということがどうなのかと…。

Q: なるほど、悩ましいですね。課題も少なくないですが、一つひとつ解決して、よりよい仕組みにしていきたいですね。ありがとうございました。



バッティング指導をする野球部もうひとりの顧問中村先生

東葛駅伝 10月21日(土)

「野田市総合公園陸上競技場」と「松戸市立中部小学校」間約32km10区間を男女混合チームで走る「東葛飾地方中学校駅伝競走大会(東葛駅伝)」。その大会の様子がとても興味深かったので、「柏二中特設駅伝部」担当の矢内先生にお話を伺いました。

Q: 初めて東葛駅伝を見に行き、とても興奮しました。

矢内先生: 実は、東葛地域は駅伝が盛んな地域なんです。箱根駅伝にエントリーする選手の出身校は千葉県が一番多いですから。男子の県駅伝に入賞する中学校は毎年ほとんど東葛地域で占めるくらいレベルが高いんです。

Q: 知りませんでした!

矢内先生: この地域にいると当たり前になっちゃいますから(笑)。公道を白バイ先導で走る中学の駅伝は珍しいですよ。支部駅伝、県駅伝、関東駅伝とは別枠で存在していること自体スゴイ。学校行事なので、地域の人たちの注目度も高いですよ。

Q: 10人の出場選手はどのように選抜?



ゴールの中部小学校前は、観客でいっぱい!!

矢内先生: ふだんの練習とタイムトライアルの結果から決めます。

Q: 特設駅伝部の部員数は何人ですか?

矢内先生: 43人です。

Q: けっこうたくさんいるんですね。

矢内先生: 今年は文化部の生徒が3人も入部してくれたのはうれしかったですね。

Q: どのあたりが魅力なのでしょう?

矢内先生: 長距離の楽しさを見出すのは、記録を更新したとき。最初はうまく走れなかった生徒も、練習するごとに速くなっていくというプロセスが楽しくなって、続けてくれるように思います。

Q: 成果が見えるのはいいですね。

矢内先生: はい。孤独な競技と思われがちですが、実際には仲間と一緒に走ったり、たすきをつなぐときの楽しさもあつたりします。仲間と一緒に感動できる楽しさを味わってほしいと思います。サッカーや野球など他のスポーツをするときにもメリットになりますし。

Q: 保護者が何かできることはありますか?

矢内先生: やはり応援はうれしいですね。「柏二中がんばれ」と知らない人から言われてもうれしく感じるようです。沿道に並んでいる何千人という人が全員自分を応援しているように思えるという子もいるんですよ。



ゴール直前の柏二中アンカー

《コラム》東葛駅伝はいつからあるの?

東葛駅伝の歴史は古く、1930年(昭和5)年に東葛飾郡の青年団が町村対抗の駅伝大会を実施したことに始まります。しかし、1937年に日中戦争が始まると、翌年から駅伝は中止になり、駅伝を走った多くの若者が招集されていきました。手賀村では第5回大会優勝メンバーは全員招集され、そのうち3人が戦死しました。



1948(昭和23)年1月、復活第1回東葛青年駅伝大会が開催され、翌年には10町村の12の(新制)中学校が参加して、第1回東葛地方中学校駅伝競走大会が開催されました。その後、参加校は70校を超え、現在にいたります。